

(様式1-2)

I 学校の概要

読解力向上推進モデル校事業 まんのう町立高篠小学校

◆学校の特色

本校は、子どもたちの学力向上のために、昨年度から読解力向上推進モデル校事業を受け、「主体的に考え、行動する児童の育成—『テキストを理解し、利用し、熟考する』、教師の『しかけ作り』」を研究主題に掲げ、研究を進めてきた。子どもたちが授業の中で、「テキストを理解し、利用し、熟考する」ためには、教師の「しかけ作り」が必要だと考える。その際、子どもの学びを「見通し—行動—振り返り」の三つの場面に分けて「しかけ作り」をしていく。昨年度の研究の成果から、授業の見通し場面において、子どもたちが「考えたい」と思えるようなしかけを開発することにより、子どもが主体的に考える姿が見られた。今年度は、読解力向上推進モデル校事業の2年目に当たる。

II 研究主題等

研究主題

主体的に考え、行動する児童の育成

— 「テキストを理解し、利用し、熟考する」、教師の「しかけ作り」(第2年次) —

◆研究主題設定の理由

本校の児童は、素直で様々なことに真剣に取り組むが、その姿勢は受け身であり、「主体的に考え、行動する」力をつけることが不可欠である。令和7年度2月に実施した「標準学力調査」の本校の子どもたちの国語と算数の学力においては、第1学年時から下降していく傾向も見られ、全国平均を大きく上回ることはできておらず、学力を向上できているとはいえない。昨年度の研究の課題でも、テキストがあっても内容を正しく読むことができない、テキストを使って自分なりに考えを作るのが難しい児童の姿が見られた。そこで、今年度は、授業の行動場面において、全ての子どもが「読解力」を発揮して問題(課題)解決に向かえるようなしかけの開発、授業の振り返り場面において、読解力に特化した振り返りの開発を中心に研究を行いたい。

◆研究内容及び方法

①行動場面のしかけ

授業の行動場面において、読み取りたくなるようなテキストのしかけ、発問のしかけ、板書のしかけをすることによって、全ての子どもが「読解力」を発揮して問題(課題)解決に向かえるだろう。

②振り返り場面のしかけ

授業の振り返り場面において、読解力に特化した振り返りを開発することによって、自らの課題を把握し、次の授業でよりよい読解をしようと見通しを持って、学習に取り組むことができるだろう。

III 成果の評価計画(検証方法)

(1) 全国学力・学習状況調査の結果

全国と本校の児童の国語と算数の全体的な比較及び国語・算数の「思考力・判断力・表現力等」の比較

(2) 標準学力調査の結果

同一学級集団の学力の推移の把握、及び全国と本校の児童の国語と算数の全体的な比較、国語・算数の「思考力・判断力・表現力等」の比較

(3) 児童の授業の様子・生活の様子

研究授業後の討議において、抽出児を中心とした子どもの様子について話す。また、普段から教師間で積極的に情報交換をして、その変容を探る。

(4) 児童アンケート・保護者アンケート

読解力や学びに向かう姿勢に対するアンケートを作成し、学年のはじめと終わりに調査をし、1年間の変容を捉える。

IV 研究成果の普及方法

(1) 「香川の教育づくり発表会」での発表

令和8年1月25日(金)に予定されている「香川の教育づくり発表会」において、2年間の研究成果を県内の先生方に発表する。

(2) まんのう町教育委員会研修発表会での発表

令和8年度は、まんのう町の教育研究発表会において、町内の教員に対して授業公開し、研究成果を発表する。

(3) 研究授業の公開

県内の教員に対して、学期に1本の授業を公開する。